

SDGsと関連した取組によって、人材の多様化と技術開発を促進させ、さらなる成長を目指す

同社は、鉄の表面に亜鉛の層を生成させ、水・錆・塩などから鉄製品を守る「溶融亜鉛めっき」を事業の軸としている企業である。資源循環のため、排熱・廃水を再利用できる設備や、産業廃棄物を再利用する処理方法を独自開発するなど、「環境に優しい事業」をテーマにエコ活動を行っている。厳しい環境規制や人手不足により同業者の廃業が続くなか、多様な人材の活用、環境配慮の循環型経済システムによるビジネスモデル、SDGs推進などさまざまな取組により、技術と雇用を守っている。

所在地	愛知県江南市安良町池尻80番地	設立	1962年
電話/FAX	0568-65-7306 / 0568-65-7318	資本金	2,000万円
URL	http://www.shinwa-made.co.jp/index.html	従業員数	57人
代表者	代表取締役 眞野 祥典		



年齢・国籍・性別等の垣根ない採用により、多様性のある強靱な組織体制の確立

女性の幹部登用や、地元高校新卒、シニア人材、外国人の採用を行い、人材の多様化を進めている。従業員57名のうち、半数が外国籍であり、ネパール、フィリピン、ブラジル、モンゴルなど9か国から採用。年齢、国籍、性別を問わず、多様な人材が活躍している。全社的に人材の多様性と環境配慮の取組をSDGsにつながるあわせた活動を推進。地元高校からSDGsをテーマとした研修の受入など、直接的な採用活動としない分野でも連携を進め、地域、業界における信頼向上を目指している。



ネパール人管理職による設備の操作

環境配慮の循環型経済システムを推進するビジネスモデルの構築

2019年に新工場を竣工し、産業廃棄物として中和処理後に埋め立て処理をしていた工程に、亜鉛と鉄分を分離して、産業廃棄物を減らす技術を導入した。この技術により、産業廃棄物の半数以上を有価物として薬品会社へ売却できるようになった。また、その薬品会社が製造した薬品を同社が購入し、自社工程で再使用するエコサイクルを行っている。また、工程から発生する亜鉛カスを溶解し、再利用する専用設備を設けるなど、環境配慮とコスト低減及び収益増加を同時に実現するビジネスモデルを構築した。



亜鉛カスの回収装置（同社開発）

SDGsの推進によって、人材の多様性、事業の生産性向上、原価改善を目指す

SDGsを全社的に推進することで、人材の多様性だけでなく、事業の生産性や原価改善にも大きな効果を発揮している。二酸化炭素排出量を削減するために実施している溶融炉の効率的な稼働や、亜鉛カスのリサイクルなどの環境に配慮した研究開発は、社会貢献に加え、コストを低減し、収益を向上できる組織の礎をつくることができた。日々の現場改善による生産性向上をSDGsと関連づけて示すことで、社員も納得感をもちながら実践することができている。



SDGsに関連させた目標管理